

平成18年度第1回特定疾患対策懇談会議事要旨について

- 平成18年8月9日、特定疾患対策懇談会（座長：国立精神・神経センター総長 金澤一郎）が開催された。
- 平成14年8月の厚生科学審議会疾病対策部会難病対策委員会中間報告のうち、残された課題として、希少性の要件（患者数が概ね5万人）を超えている3疾患（潰瘍性大腸炎（80,311件）、パーキンソン病（72,772件）、全身性エリテマトーデス（52,195件））の取扱いについて議論がなされた。
- 本日の議論は、
 - ・ 全身性エリテマトーデスについては、5万人を超えたものの、ここ数年の患者の伸びは5万人の近傍でほぼ横ばいとなっており、引き続き患者数の動向を見守る。
 - ・ 希少性の要件を大幅に上回る潰瘍性大腸炎及びパーキンソン病の取扱いについては、希少性の要件非該当ではあるが未だ原因が不明であることなどから、特定疾患からの除外は行わず、特定疾患治療研究事業の対象者の範囲が希少性の要件に該当する方向で検討する。
 - ・ 希少性の要件を大幅に上回る疾患の見直しを行った後に、新規疾患の追加を行う必要があるとの意見があった。
- なお、次回（9月）は潰瘍性大腸炎、パーキンソン病の代表的な患者団体からヒアリングを行ない、10月頃に取りまとめの議論に入ることとされた。